

# 令和6年度診療年報

NHO 長崎川棚医療センター

# 診療部

---

# 診療部－消化器内科－

## ■ 診療科の特色

当院は九州地区の神経・筋疾患基幹医療施設ですが、地域の総合病院としての役割も担っており、当科においては積極的に消化管疾患、肝胆膵疾患双方の診療に取り組んでいます。

検査、手技が多いのが、診療科の特色です。検査では上部消化管内視鏡、大腸内視鏡を実施しています。特に大腸内視鏡検査に関しては、近年大腸癌患者が急増している状況を鑑み、NBI（狭帯域光観察）・拡大内視鏡検査も適宜用いて、高精度でより正確な診断を追求しています。治療内視鏡では、内視鏡的ポリープ切除術、内視鏡的逆向性胆管膵管造影、内視鏡的総胆管結石除去術、内視鏡的胆管ステント挿入術、内視鏡的観察下胃瘻造設術などを行っています。

## ■ 入院診療実績

疾患名	令和6年度	令和5年度
食道癌、胃癌、大腸癌	11	21
肝癌	1	0
胆道癌	1	3
膵癌	3	6
肝障害	11	9
大腸ポリープ	111	105
消化管出血	15	25
良性胆道疾患（胆石等）	18	20
胃、腸疾患	39	37
その他	70	73
消化器疾患全体	280	299

■ 検査、手技実績

検査、手技名	患者数	
	令和 6 年度	令和 5 年度
上部消化管内視鏡	368	448
大腸内視鏡	299	397
内視鏡的逆向性胆管膵管造影	4	3
内視鏡的消化管止血術	19	18
内視鏡的食道静脈瘤結紮術	0	0
胃瘻造設術（胃瘻交換）	7(5)	6(7)
内視鏡的胃ポリープ切除術	2	2
内視鏡的大腸ポリープ切除術	112	112
内視鏡的胆管ステント挿入術	2	4
内視鏡的総胆管結石除去術	6	9
内視鏡的イレウス管挿入	0	1
内視鏡的食道ステント留置術	0	0
内視鏡的大腸ステント留置術	2	0
内視鏡的 S 状結腸軸捻転解除術	4	0
内視鏡的異物除去	3	2
内視鏡的狭窄拡張術	0	0

■ 将来の展望

現在、当科は常勤医 2 名で消化器疾患の診療に携わっております。また内視鏡検査に関しては、昨年度より大学病院から非常勤医を招き、検査の拡充を図っております。今後もさらなる地域医療への貢献を目標に邁進してまいります。

文責：松本 章子

# 診療部—脳神経内科—

## ■診療科の特色

まず最初に。令和6年度は、めでたい話題とはいえ、少数精鋭に拍車がかかって大変な一年でもありました。当科医長の成田が令和6年4月に無事出産。その1か月前の3月から産休、続いて育休を取得しました（令和7年5月に職場復帰しています）。そして、おそらく過去最少ではないかという福留、林、筆者永石の常勤医＋週に1回専門外来に来ていただく松尾先生の総勢4名で、いつも通りの臨床業務をつづける一方、学会発表・市民公開講座などの院外活動にも手を抜かない1年でした。診療科として、働く者のライフスタイルに合わせて、ワークスタイルをアレンジしてしなやかにカバーできる強みを発揮できたと思います。

そしてもう一つ、防衛医科大学校でキャリアをスタートした脳神経内科医、山本絢医師が、令和6年7月の自衛隊佐世保基地への異動に伴い、通修（いわゆる研修を、このように呼ぶそうです）で週に2回当科で臨床を学んでいます。学びの場所に選んでもらえる幸せ！同時に、選んでもらったからには得るものを得ていただきたく、やはり、少数精鋭でも質を保った診療、研究の充実を心がけていきたいものです。

当院の脳神経内科は、西九州脳神経センターとしての役割を担い、脳卒中、めまい、頭痛、認知症といった一般的な疾患から、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎、多発筋炎、髄膜炎・脳炎、ジストニア、てんかんなど様々な神経・筋疾患に対する専門的診断・治療を行っています。

当科の医療圏は、近隣の東彼杵郡川棚・波佐見・東彼杵の3町をはじめ、北は平戸から南は島原半島まで長崎県全域から、また隣接する佐賀県の嬉野市、有田・伊万里地区などからも患者さんが来院されており広範囲にわたります。新規のご紹介では、外来で詳細な問診・神経学的診察を行い、MRI／CT、RIなどの画像検査、電気生理学的検査などを駆使して診断を行います。症状のために移動が困難、頻繁な来院は難しいといった患者さん、あるいは腰椎穿刺や筋生検など入院経過観察を要する検査の場合は、入院にて検査を進めています。

当科の大きな特徴として、①脳卒中や髄膜炎・脳炎といった急性疾患の治療に携わること、②年余にわたる経過の神経変性疾患では、病初期の診断から治療導入、慢性期の管理まで長きにわたってお付き合いしていくこと、③パーキンソン病に対するデバイス治療・痙縮やジストニアに対するボトックス療法といった特殊治療にも取り組んでいること、④療養介護サービスによる長期入院など、非常にバラエティにとんだ診療を行っています。

入院病棟では、急性期脳梗塞、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患、重症筋無力症や多発性硬化症といった免疫性神経疾患の患者さんの急性期、あるいは再発・再燃時の治療を行っています。また、神経難病をもった患者さんの感染症や転倒による骨折などの合併症の場合も、他科医師と連携して入院治療をしています。リハビリ目的の入院対応もお引き受けしています。また、進行期神経難病患者さんの在宅療養支援にも取り組んでおり、気管切開による侵襲的人工呼吸療法や、マスク装着による非侵襲的人工呼吸療法が必要な患者さんに

は、その導入時の調整や指導、その後の外来管理や定期的なレスパイト入院のご提案など、無理なく在宅ケアが開始・継続できるようサポートしています。

医師、病棟看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフなど、多職種が協力しあってチーム医療を行っています。特に、進行期神経難病患者さんでは、疾患の進行にともなって治療継続、生活に工夫を要することが徐々に増し、入退院の機会も頻繁となりがちですが、在宅復帰にあたっては、必要に応じて、在宅での往診医、訪問看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパーなどを含めた退院前カンファレンスを開催するなど密な連携を心がけています。

神経疾患の特殊治療としては、ジストニアや上下肢痙縮、痙性斜頸、眼瞼痙攣などに対するボトックス療法を積極的に行っています。また、痙縮では、バクロフェン髄腔内投与療法（ITB）も適応のある患者さんにご提案しています。

パーキンソン病に対する脳深部刺激療法（DBS）については、長崎県では唯一、当院で導入から定期管理まで実施しており、術前評価、植え込み手術からその後の管理まで脳神経外科と当科とで共同して取り組んでいます。他県の医療施設で植え込み手術を受けた患者さんでも、必要に応じて、当院で治療を引き継いでいます。

当科では教育、研究にも力を注いでいます。感じ、気づき、考える、を合言葉に、院内での勉強会を企画します（令和6年度は、少々多忙を言い訳に、お休みしましたが）。また、神経・筋難病診療の豊富な経験を生かして、令和5年度から神経・筋難病看護エキスパートナース講習を再開し難病を学ぶ多施設の看護師さんにお集まり頂いています。

■入院診療実績 ※2024年4月1日～2025年3月31日退院件数。転科症例は除く。定期フォロー中の症例の合併症による入院は原疾患でカウントした。

疾患	症例数(人)
脳血管障害	63
神経変性疾患	250
（うちパーキンソン病/症候群）	(138)
（うち筋萎縮性側索硬化症）	(73)
MS/NMO など CNS 脱髄性疾患	17
ニューロパチー	17
ミオパチー	26

MG など神経筋接合部疾患	9
脳炎・髄膜炎	0
てんかん	16
ミトコンドリア病	3
その他	12
小計	413
一般内科疾患/外傷	87
合計	500

・主要な検査、治療

検査・治療	件数
筋電図	56
脳波	29
筋生検	2
ボトックス療法	72
血漿交換療法	1
DBS（新規）	13(1)

■ 研修・教育

カンファランス	参加職種	人数	開催
脳神経内科カンファレンス	医師	5	1回/週
脳神経内科・脳外科 合同抄読会	医師	5	1回/週
脳卒中カンファレンス	医師、看護師、リハ療法士、栄養士、MSW	4-10	1回/週
病棟カンファレンス	医師、看護師、薬剤師、 リハ療法士、栄養士、MSW	15	1回/週

退院前カンファレンス	患者・家族、在宅療養支援関係者、病棟スタッフ	10	適宜
病棟勉強会	医師、看護師、リハ療法士	10-20	不定期

・治験関連

治験	1 件
受託研究	2 件

■ 将来への展望

高齢化と社会的孤立、そして相対的貧困の問題は、現場の医療を複雑にしています。一方、これまでなかった神経筋難病の治療法があらたに開発されるといった明るいニュースもあります。当科では、つねに知見をアップデートして専門性を高く保ち、一方で生活ベースの包括的診療を提供していくよう心掛けたいと考えています。

初診の診断、急性期治療から慢性管理までと、前述のとおりバラエティに富む診療を提供できる当院の環境は脳神経内科医にとって非常にユニークで面白いものです。これがどうして働き手が少ないのかが、引き続き悩みの種です。短期的展望としては、診療のみならず研究、発表をさらに頑張っ、適切に情報発信して魅力を伝えたい、一緒に働こうと全国からスタッフが集まってくるような病院にしたいと願っています。

■ 研究実績

・競争的研究資金の獲得

(1) 厚生労働科学研究費 有 スモンに関する調査研究班 福留 隆泰 厚生労働省行政推進調査事業補助金（難治性疾患政策研究）

学会・講演会

1. 頭部 MRI の DWI で脳梁に高信号を認めた中枢神経原発びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の一例  
福留隆泰 第 149 回県北神経懇話会 2024/05/21
2. 脳卒中の話  
林信孝 長崎川棚医療センター健康公開講座（波佐見町） 2024/06/29
3. 「もの忘れ」の予防と対策

- 福留隆泰 長崎川棚医療センター健康公開講座（波佐見町） 2024/06/29
4. 発症 19 年後に神経核内封入体病と診断した一例  
永石彰子 第 245 回日本神経学会九州地方会 2024/9/28
  5. 免疫グロブリン大量療法の長期反復が有効と考えられた封入体筋炎の 2 症例  
永石彰子 第 150 回県北神経懇話会 2024/10/01
  6. 免疫グロブリン大量療法の長期反復が有効と考えられた封入体筋炎の 2 症例  
永石彰子 第 36 回 日本神経免疫学会学術集会 2024/10/05
  7. 脳卒中の話  
林信孝 長崎川棚医療センター健康公開講座（東彼杵町） 2025/02/08
  8. 「もの忘れ」の予防と対策  
福留隆泰 長崎川棚医療センター健康公開講座（東彼杵町） 2025/02/08

## 和論文

1. 本山 高啓 松岡 優毅 黒濱 大和 永石 彰子 戸田 啓介 中島 正洋：高齢発症膠肉腫の 1 例 -剖検時に採取された脳腫瘍圧挫標本の細胞像- 日本臨床細胞学会九州連合会雑誌。55 67-70
2. 福留隆泰：難病医療 筋萎縮性側索硬化症と封入体筋炎の診断に苦慮した 2 症例。難病と在宅ケア 30(9) 53-5

## 英論文

なし

(文責：脳神経内科 永石彰子)

# 診療部—循環器内科—

---

## 1. 診療科の特色/概要・基本診療指針と展望

循環器科 1 人体制となり、急性心筋梗塞などの救急疾患には対応できなくなり、また、心臓カテーテル検査も令和 3 年 6 月以降は施行できなくなっていますが、高齢化が進むなかで地域住民の循環器疾患有病率は確実に上昇してきています。令和 2 年 8 月より心臓リハビリを開始しました。狭心症に対する冠動脈 CT や徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術に加え、心不全を中心とした循環器領域の診療を行っています。

## 2. 入院診療実績

入院総数 160 名

平均在院日数 26.6 日

ペースメーカー植込・電池交換術 8 件

## 3. 研修・教育

### 研修・資格

日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本循環器学会認定専門医 1 名

日本内科学会総合内科専門医 1 名

日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士 1 名

### 教育・講演会

心臓リハビリ・心不全ミーティング(ミニ勉強会) 隔週水曜

心臓病と生活習慣 R6年6月9日 波佐見町公開講座

## 4. 治験・共同研究

### ■分担研究

・EXCEED-J

『簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効果的なハイリスク患者抽出方法の確立』 Establishment of Method to Extra a High Risk Population Employing Novel Biomarkers to Predict Cardiovascular Events in Japan

研究責任者:NHO京都医療センター 臨床研究センター 和田 啓道

・PREHOSP-CHF

『慢性心不全患者の新しい再入院リスク評価法の確立 ～新規バイオマーカーと心不全再入院イベントの関連～』 Development of Novel Biomarkers to Predeict REHOSPitalization in Chronin Heart Failure

研究責任者:NHO京都医療センター 循環器内科 井口守文

・PREVENTION-HF

『高齢慢性心不全患者における肺炎球菌ワクチン接種とその後の心不全の臨床経過:長崎におけるコホート研究』

研究責任者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 予防医療学分野 石見 拓

主たる研究実務担当者:

京都大学大学院医学研究科 社系健康医学系専攻 専門職学位課程 予防医療学分野 吉村 聡志

■治験 : なし

(文責:循環器内科 二宮暁代)

# 診療部—代謝内科—

## ■ 診療科の特色

代謝内科では、糖尿病、バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症の他、高脂血症、肥満・やせなどの内分泌代謝性疾患に対する診療を行っている。

内分泌疾患については、県内でも常勤の内分泌専門医がいる病院は非常に少ないため、地域の先生方から多くの紹介をいただき、専門的な診断や治療を行い、地域における内分泌専門医療機関として役割を果たしていくことを目指している。また、糖尿病診療においてはコメディカルを加えたチーム医療体制の構築を図り、糖尿病合併症の重症化予防に努めている。

外来では、糖尿病患者の診療が中心であるが、甲状腺疾患の紹介患者数も増加しており、バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍などの内分泌疾患患者の診療も行っている。

糖尿病患者に対しては病態を考慮した治療を行っている。また、インスリン抵抗性の評価、超音波断層法を用いた頸動脈病変の評価、血圧脈波計を用いた非観血的下肢血行動態の評価、神経伝道速度の定量的評価などを併用して、糖尿病の代謝動態および合併症状態の総合的把握にあたっている。糖尿病患者教育に関しては、外来ならびに病棟での糖尿病療養指導に力を入れている。

教育入院については、2～3週間のクリティカルパスを作成して適切な教育入院を目指している。教育入院後は積極的に逆紹介し、当院外来では血糖コントロール困難例・重症例を中心に糖尿病患者の診療を行っている。

糖尿病をはじめとする生活習慣病は年々増加傾向にあるため、糖尿病教育には特に重点をおいており、糖尿病療養指導士(看護師・栄養士)とチームを組んで集団指導(糖尿病教室)、個人指導、糖尿病パンフレットなどによる指導などを行っている。外来にて糖尿病性腎症に対する透析予防管理を行い、医師・専門看護師・管理栄養士による腎症進展予防を目指している。

## ■ 入院診療実績

・2024 年度入院患者数 : 55 名

### ・入院患者主要疾患

疾患名	ICD-10 コード	患者数	死亡数
1) 2 型糖尿病	E11*	20	0
2) 急性肺炎	J189	4	0
3) うっ血性心不全	I500	4	0
4) 尿路感染症	N390	3	0
5) 良性発作性頭位めまい	H811	3	0
6) 1 型糖尿病	E10*	3	0
7) COVID-19 感染症	U071	2	0

8) バセドウ病	E050	1	0
9) 汎下垂体機能低下症	E230	1	0
10) 低血糖	E162	1	0

・主要な検査

甲状腺穿刺吸引細胞診検査件数：1件

■研修・教育

・カンファランス

なし

・教育・講習

なし

■将来への展望

糖尿病診療については、チーム医療を強化し、教育入院の質の向上を図っていきたい。また、外来での糖尿病療養指導の充実、外来インスリン導入のための体制づくりを推進していきたい。

内分泌診療については、地域の専門医療機関として、内分泌疾患の適切な診断と治療を提供できるよう地域の医療機関との連携を強化していきたい。

■研究実績

・競争的研究資金の獲得

なし

・原著論文

なし

・学会発表

なし

・講演

1) <講演>「糖尿病の話」(代謝内科 木村博典) 長崎川棚医療センター健康公開講座、波佐見、  
2024.6.29

2) <講演>「糖尿病の話」(代謝内科 木村博典) 長崎川棚医療センター健康公開講座、東彼杵、  
2025.2.8

・座長

1) <座長>生涯教育講座「しまで考える糖尿病診療が進むべき道～チルゼパチドを地域でどう活かすか～」  
(長崎大学 離島へき地医療学講座 講師 野中文陽先生) 東彼杵郡医師会学術講演会「火曜会」、  
川棚、2025.3.11

(文責：代謝内科 木村博典)

# 診療部—放射線科—

放射線科 中村 悟 令和7年5月20日

## [1] 放射線科の特色

放射線科は近年その重要度を増しているCT、MRI、RIなどの画像診断を主な業務とし、胃透視(人間ドック)や消化管造影の一部も施行しています。機器自体は比較的新しく高機能で、最新鋭の設備と言えます。電子カルテやレポートシステムも完備で、理想的なフィルムレス環境です。1名の常勤放射線科医(診断専門医)および1名の非常勤医師、1名の大学からの非常勤医師により、ほぼ100%を読影(診断)しています。

## [2] CT、MRI、RI、骨密度の検査件数の推移

令和6年度のCTは3853(共同利用313)(←令和5年度3617共同利用300)件とやや増加した。

MRIは、1996(共同利用531)(←2146共同利用539)件とやや減少した。

CT、MRIともに急患などの依頼に対しては対応し易くなっている。

RIは、95(共同利用8)(←103共同利用18)件とやや減少した。

透視は、134(←187)と減少した。

骨密度(令和6年2月～開始)は、124件だった。

放射線科外来(院外紹介)は、863(←859)とやや増加した。

[3] 令和6年2月に、骨密度測定装置が新たに設置され、月～金曜日の検査体制(上限なし)が整ったので、臨床の先生からの依頼増加が見込まれる。

## [4] 時間内外画像診断

令和3年1月から、岩野先生の自宅に、iPadを設置し、mobileルーターを使った遠隔読影の環境を設置し、2-3件/月、読影および電話での対応を実施している。通信速度がやや遅いが、画像診断に足る画像である。

また、令和4年から時間内外の読影で実施している大学画像診断センターからの second opinion で、診断に寄与している。

#### [4] 画像管理加算 1, 2

画像管理加算1は、単純写真で請求できるが、当院では胸部単純写真のみ実施し、一部の加算がとれる。

画像管理加算2は、CT, MRI, RIなどで請求されるが、近年、放射線科学会の新たな申請基準が示され、放射線科専門医1名で、令和6年度の画像管理加算2の申請が受理された。

#### [5] 放射線科の現状と展望について

CT、MRI、RI検査の読影80%以上という画像管理加算2の維持は当分可能と思われる。CTやMRIの全3D処理や再構成は全て放射線技師が作成しており、放射線科医の負担軽減に役立っている。今後も外来や連携室などの病院各部門とさらに協力しながら、病院の活性化に向けて頑張りたいと思います。

#### [5] 業績:論文

なし。

# 診療部—脳神経外科—

- (1) 入院症例数 98 名  
(2) 手術症例数 33 例

## 外傷

慢性硬膜下血腫 8

## 機能外科手術

パーキンソン病・本態性振戦など

脳刺激装置植え込み（両側） 2

脳刺激装置交換 15

てんかん

迷走神経刺激装置植込 2

迷走神経刺激装置交換 2

## 水頭症手術

シャント手術 1

## その他

創傷処理 3

- (3) 剖検数 0

## I. 論文業績

(ア) 高齢発症膠肉腫の 1 例 一部検時に採取された脳腫瘍圧挫標本の細胞像—。 本山 高啓、松岡 優毅、黒濱 大和、永石 彰子、戸田 啓介、中島 正洋。日本臨床細胞学会九州連合会雑誌 55: 67-70, 2024

## II. 学会発表

(ア) 長崎県北地区におけるてんかん診療。戸田啓介。第 11 回 佐賀てんかん診療連携会。2024 年 6 月 12 日

(イ) 地域におけるてんかん診療。戸田啓介。佐世保脳神経外科医会 学術講演会。2024 年 8 月 23 日。アルカス佐世保

(文責：脳神経外科 戸田 啓介)

# 診療部—外科—

## 1.診療科の特色／概要・基本診療指針

当科では鏡視下手術(腹腔鏡、胸腔鏡)・小切開手術を主体にした低侵襲手術、高齢者・病弱者に対する十分な術前管理に基づいた安全性の高い手術を基本とします。領域は甲状腺・乳線・肺・消化管(胃、小腸、大腸、直腸)・肝臓・胆嚢・膵臓のほか、下肢静脈瘤、難治性神経疾患に対する喉頭気管分離術など幅広く行うことを方針としています。癌腫の診療には、各臓器別に診療ガイドラインからエビデンスに基づいた治療を選択するようにしています。また、化学療法や癌緩和医療など、手術以外の分野の診療も積極的に行っています。

## 2.入院診療実績

令和6年度には291名入院され、外科・呼吸器外科で76症例(全身麻酔68例、腰椎麻酔4例、局所麻酔4例)の手術が行われました。

臓器別手術症例数			
臓器 \ 麻酔	全身麻酔	腰椎麻酔	局所麻酔
胃	1	---	---
小腸	5	---	---
結腸、直腸	19	---	1
胆嚢、総胆管	12	---	---
ヘルニア	22	---	---
呼吸器	2	---	1
その他	7	4	2
総数	68	4	4

※腹腔鏡下手術…30例

## 3.研修・教育

入院患者さんの栄養管理を目的とした研修プロジェクトである TNT 研修会に積極的に参加し、ライセンスの習得を行っています。また、外科的疾患に対する知識を深めるため教育集会などを病棟中心に定期的を開催しています。

(文責：外科 徳永 隆幸)

# 診療部—整形外科—

---

令和6年度は整形外科医2名の診療体制であった。

長崎大学病院から月・水曜日に各1名の応援体制であった。

手術は76例で、大腿骨頸部骨折が主であった。

入院1日平均患者数は17.2人と、昨年度の16.5人より増加していた。

外来1日平均患者数は10.9人と、昨年度の11.2人より減少していた。

(文責：整形外科 藤本 勝也)

# 診療部—総合診療内科—

---

## ■診療科の特色

当科は2019年6月に新設されました。科のモットーとしては、フットワークを軽く、全体を見渡しながら、現場ニーズに合わせた診療を心がけています。診療科にかかわらず内科全般の診療をおこなっています。高齢者人口の増加に伴い、複数疾患を抱える患者さんが増加し、このような患者さんの診療、問題解決を得意としています。そのほか原因のわからない発熱、体重減少といった診断の確定していない患者さんへの診療も行います。院内感染対策チームへ参加し、抗菌薬適正使用、感染症対策への取り組みを行っています。

## ■スタッフ

○常勤4名（2024年度1名増員）

## ■教育、研修

○専門医

日本内科学会 総合内科専門医1名

日本プライマリケア連合学会 家庭医療専門医2名

○認定医

日本内科学会 認定内科医2名

日本医師会 認定産業医1名

○院外講師

向陽高等学校看護専攻科 病態生理学1 感染症

## ■入院診療実績

○2024年度入院患者数690名（入院サマリーより作成）

入院患者数は、2022年度471名、2023年度552名、2024年690名と年々増加を認めています。入院患者層は、地域の実情を反映し、65歳以上の高齢者がその大半を占めています。上記入院診療以外にも、整形外科、外科で入院されている患者さんで内科疾患のサポート退院調整（家族説明や退院先の相談）が必要な場合、JNPさんと協力のもと併診を行

っています。また常勤医師不在の皮膚科で入院が必要な場合は主治医として診療を行っています。

#### ■外来診療実績

地域連携室を介し紹介状を持参される患者さん、当日紹介状を持たずに受診される患者さんの初診外来を行っています。平日内科救急外来当番（緊急を要する内科疾患への対応）は、当科でその半数を担っています。（月曜午前/午後、火曜日午後、金曜日午前/午後）

#### ■臨床研究

長崎医療センター総合診療科から協力依頼のあった R5-NH0(感染)-03 グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌診断モデルの開発と検証に参加。

#### ■将来への展望

入院となった疾患のみならず、患者背景を考えながらの治療方針の決定、アドバンスケアプランニング、ポリファーマシー（多剤内服）問題に対し多職種カンファレンスを開催し、取り組みを継続していきます。

2025年度より、長崎医療センター総合診療科よりさらに常勤1名を確保でき、常勤5名体制となります。2024年度以上に内科救急、外来、入院患者への対応を行うことが可能になると考えています。働く医師が診療のみならず、自らの体調や生活を充実しておくれるように配慮していきたいと考えています。

感染対策、緩和ケアチームの活動継続と充実、身体拘束最小化チーム、患者サービス向上委員会といった委員会活動へ当科の医師が参加をすることで、当院がよりよい医療が提供できるように取り組んでいく。

#### ■研究実績

○競争的研究資金の獲得

なし

○原著論文

Influences of advanced age in rheumatoid arthritis: A multicentre ultrasonography cohort study

(Modern Rheumatology 15 卷 34 号 P1142-1148 2024. Oct.)

○川原 知瑛子, 福井 翔一, 道辻 徹, 西野 文子, 遠藤 友志郎,  
清水 俊匡, 梅田 雅孝, 住吉 玲美, 古賀 智裕, 岩本 直樹, 折口 智樹,  
植木 幸孝, 榮樂 信隆, 鈴木 貴久, 岡田 覚丈, 松岡 直樹, 高岡 宏和,  
濱田 浩朗, 都留 智巳, 有信 洋二郎, 日高 利彦, 藤川 敬太, 吉玉 珠美, 多田 芳史, 大  
坪 秀雄, 石崎 淳, 浅野 智之, 川上 純, 川尻 真也

○学会発表

○草野 晋平

身体所見が契機となり診断された進行期乳房外パジェット病の一例

(日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第12回学術集会・講演会  
ポスターセッション)

(文責 総合診療内科 大野 直義)

# 看護部—理念・基本方針—

---

## 【理念】

私たちは“よりよく生きる”を支える看護を提供いたします

## 【基本方針】

1. 患者に信頼される安全で安心な看護を提供します
2. 知識・技術・人格を磨き、自律し実践できる看護師を育成します
3. 各医療チームと協働し、患者中心のチーム医療を推進します
4. 看護・教育・研究を通して地域に貢献します
5. 組織の一員として病院経営に参画します

# 看護部-目標評価-

看護部長 安藤 内美

## 【スローガン】

「個別性のある看護」を実践しよう

## 【目標】

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
  - 1) 看護観・倫理観の醸成を図り、看護倫理綱領に基づいた看護実践と行動ができる
  - 2) “よりよく生きる”を意識した、最適で最善な看護の提供ができる
  - 3) 根拠に基づいた看護実践と看護記録(看護展開の見える化)ができる
  - 4) 安全、安心、快適な療養環境の提供を図る
  - 5) 医療安全・感染制御に対する職場風土の醸成
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
  - 1) 診療報酬改定に対応した適正な病床管理を図る
  - 2) 働き方改革を意識した業務改善の推進と業務の効率化を図る
  - 3) PDCA サイクルを用いた継続的な質改善活動ができる
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成
  - 1) Acty ナース Ver2 に基づいた学習支援と学習する組織づくり
  - 2) CREATE に基づいた中間管理者の問題解決・戦略的思考の育成を図る
  - 3) ワーク・ライフ・バランスを考慮した職場環境改善の継続

## 【評価】

### 目標1について

各部署において看護観・倫理感の醸成を図るため、各部署における患者看護カンファレンスや倫理カンファレンスの実践を推進した。副看護師長担当グループでは、身体拘束の3原則に沿ったカンファレンス実施への取り組み、認知症リンクナース会議では、患者のベッドサイドラウンドを基に事例検討を行い、最適で最善な看護の提供に取り組んだ。看護記録委員会や副看護師長会の担当グループでは、患者・家族の意向を汲んだ看護介入ができるよう、アセスメントシートの改定などに取り組んだ。結果については次年度評価していく予定である。しかし、“よりよく生きる”を意識した、最適最善な看護の提供に向けては、タイムリーな関りや継続した介入の評価などが弱い。

個々の患者をマネジメントする受け持ち看護師の機能と、それを支援するチームの機能を高める必要があり、次年度の課題とする。とまた、副看護師長会による「身体拘束最小化」の取り組みをベースとし、医師も含めた院内の「身体拘束最小化チーム」として再組織化、身体拘束実施率のモニタリングや事例検討などの取り組みを開始した。モニタリング開始後の身体拘束実施率は18～25%前後で推移しているが、3原則に沿ったカンファレンス実施への取り組みもあり、現在は減少傾向にある。次年度は、認知症看護の理解と多職種も含めた取り組みへと強化する。職員教育においては、倫理観の育成を意図し、各ラダーレベルでの教育計画に倫理的視点を含め企画・実施した。それにより日々のケアを振り返り、倫理的課題について考える機会となっていた。感染対策では、COVID-19が感染症5類と移行する中でも、感染状況は継続しており、手指衛生やユニバーサルプリコーションの徹底、療養環境の整備に努めた。新興感染症の発生も視野に置き、感染制御対策は継続実施が必要である。

### 目標2について

看護師長を中心とした日々のベッドコントロールおよび、地域連携・医療相談支援センター、経営企画室や医師との協働により、平均患者数は207.4人（前年度201.7人）、病床稼働率は90.6%（前年度88.3%）、と前年度を上回った。しかし施設基準を満たし適切なケアを提供するための人員確保が困難であり、派遣看護師の導入に踏み切った。同時に看護職員確保に向け、前年度発足した人材確保ワーキンググループの活動を促進、実習受け入れ校との連携や実習支援強化を図っている。DPC基準も厳しく改定される中で、目まぐるしい入退院や転入転出など看護職員及び病棟間の協力があってこそその達成と言える。目指すケアを実現するためにも経営改善・経営参画は重要であり引き続き取り組んでいく。

### 目標3について

Acty ナース Ver2を基にした教育計画に沿って、予定通り研修を実施できた。研修後のOJT発信を行ったが、臨床でのOJTの状況把握までは至らず、Off-JTとの連動までには至らなかった。次年度の課題として強化していく。CREATEについては、看護師長研究会で「質管理能力」に焦点を当て、副看護師長の評価の視点を具体化した。その評価実施により副看護師長の課題や強みに気づくことができた。また看護師長においては県内看護管理者研修と連動させ、コンピテンシーと経験学習を実践した。次年度は、CREATEのラダー評価と教育計画を作成し、副看護師長の教育・支援も実施していく。2年目以降の離職率が課題となる中、看護師長研究会で中堅看護師の職務継続に影響する要因について実態調査を行い、職務継続に向けた支援・対策について検討した。業務改善・業務の効率化や対話の場づくりなど働きやすい職場環境の改善や、上司による承認など、得られた結果を次年度の取り組みに反映させていきたい。

# 看護部－3階病棟－

看護師長 蛭原 勇治

## 基本方針

1. 入院時より退院後の生活を見据えた個別性のある看護実践
2. 清潔で整理された環境を維持し、快適な療養生活の提供
3. 看護職者として常に学習・自己研鑽を積み、倫理観が醸成された急変時対応に強いスタッフの育成

## 目標

1. 安全・安心で快適な療養環境の提供
2. 看護必要度、DPC 数など経営データを意識した病床管理や入退院支援ができる
3. チーム医療の推進・情報共有の円滑化
4. 看護のやりがいを感じる職場環境や自己研鑽し続ける風土作り

## I. 病床数構成 総病床数：60 床

外科、循環器内科、脳神経外科、整形外科、消化器内科

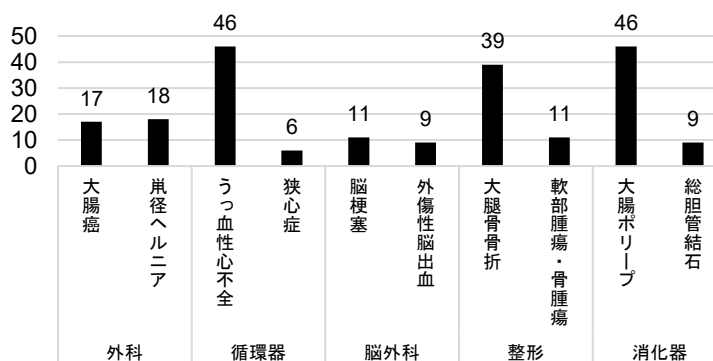
## II. 患者の動向（2024 年度）

入院患者数	1014 名
一日平均患者数	44.04 人
平均在院日数	15.5 日
平均年齢	77.4 歳
病床利用率	73.4%
CP 使用率	23.8%
看護必要度	23.7%
手術件数	163 件

## III. 看護職員数（2025 年 4 月 1 日現在）

看護師長	1 名
副看護師長	2 名
看護師	26 名
看護助手	1 名

#### IV. 主な疾患・治療・検査



#### V. 看護

1. 学習会やシミュレーションを実施し、経験年数に関係なく必要な看護が提供できるよう、知識や技術習得に努めた。また、研修報告や事例検討、カンファレンスを行い知識や技術の共有を行った。
2. 地域包括ケア病棟や外来、地域連携室と協力し入院や転棟調整など病床運営を積極的に実施した。看護必要度、DPC 発生件数の施設基準超えを意識した調整を実施することができた。退院支援についても、医師や地域連携室、理学療法士など多職種で情報を共有し、入院時より退院に向けて必要な支援や方向性の確認を行った。退院後に関わる関係者も参加した退院前カンファレンスの実施や、パンフレットを使用した患者・家族指導の充実、退院後訪問の実施などを実施した。
3. 診療科カンファレンスやリハビリカンファレンス、栄養カンファレンスなど多職種で情報を共有し方向性を検討する場を新たに設定した。また、デスカンファレンスを実施し、提供した医療・看護の振り返りを行った。看護師が患者や家族に一番近い存在として情報の提供やコーディネートを行った。
4. 立場に関係なくコミュニケーションが取りやすい職場風土づくりを行った。また、超過勤務削減のためリーダーを中心に業務調整を実施できた。年次休暇についても平均 9 日/年割り振ることができた。また業務改善を実施し、業務の効率化を行ない、委員会や研修準備など出来る限り活動時間の割り振りを行った。

#### VI. 研修・講習会等

蛸原勇治（看護師長）	個人情報保護研修、 QC 手法研修
宮田裕子（副看護師長）	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修
梶平望（副看護師長）	新任副看護師長研修 患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会
深草和美	がんリハビリテーション研修会
池田茉由子	皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程
松本京子	ストーマリハビリテーション講習会

# 看護部－4 階病棟－

看護師長 石丸亜紀奈

## 基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質の向上に寄与できる自律した人材の育成

## 目標

1. “よりよく生きる”を意識して関わり、患者さんの「自分はどうしたい」、家族の「患者にこうしてあげたい」を実現させる退院支援・看護の提供ができる
2. 病床利用率 96%以上(57.6 床以上)、一般病棟転棟患者割合 65%未満、在宅復帰率 72.5%、地域包括ケア看護必要度Ⅱ評価 8%を意識した病床管理ができる
3. 業務内容の見直しを行い、業務改善の推進と業務の効率化を図る

## I. 病床数構成

総病床数：60 床

2022 年 5 月から 5 床の増床

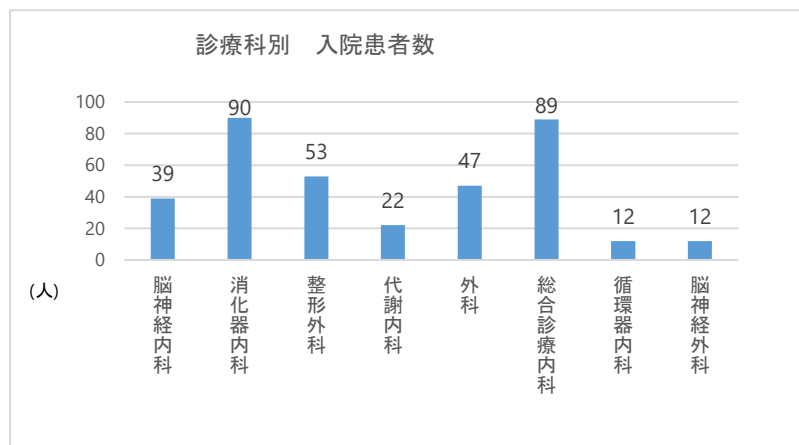
## II. 患者の動向（2024 年度）

入院患者数	364 名
一日平均患者数	57.0 名
平均在院日数	32.9 日
平均年齢	76.5 歳
病床利用率	95.1%
看護必要度	11.0%
在宅復帰率	75.2%

## III. 看護職員数（2025 年 4 月 1 日現在）

看護師長	1 名
副看護師長	2 名
看護師	24 名
看護助手	2 名

#### IV. 主な疾患・治療・検査



#### V. 看護

1. 患者、家族の意向確認については希望の確認を行い、カンファレンスを通して多職種で情報共有を行いながら、看護の提供ができた。自宅退院を目指した外出支援を実施し、退院支援の充実を図ることを目指し取り組むことができた。根拠に基づいた看護実践については、記録監査とカンファレンスでの看護計画の検討を行い、個別性のある看護を実践できるように努めた。
2. 地域医療連携室、一般病棟看護師長と病床会議を実施。地域医療連携室やりハビリ科 など週に1回多職種カンファレンスを開催した。病床利用率 94.9%、一般病棟 転棟患者割合 55.8%、在宅復帰率 78.0%、地域包括ケア看護必要度Ⅱ評価は 11.1% であった。
3. 業務内容の見直しを行い、看護師の動線や患者のベッドサイドでの観察・記録ができるよう看護体制の整備を行った。看護補助者とのタスクシフトできる内容について 検討し、業務整理・改善を実施した。

#### VI. 研修受講

石丸 亜紀奈 (看護師長)	令和 6 年度実習指導者講習会
	本人の意思を尊重した意思決定のための相談員研修会 (E-FIELD ながさき)
松藤裕太(副看護師長)	2024 年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル
平山 将(副看護師長)	2024 年度新人看護職員研修
玉置 麗弥	令和 6 年度チーム医療推進のための研修 (NST)
石原 茜	令和 6 年度感染管理エキスパートナース研修

# 看護部－6階病棟－

看護師長 今里 純子

## 基本方針

1. 患者、家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 多職種と協働し、患者中心のチーム医療の提供
3. 組織の一員として病院経営に参画
4. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

## 目標

1. 患者にとって“より良く生きる”とは何かを考え、患者・家族の思いに寄り添い、患者・家族から得た情報を共有し、根拠に基づいた看護を提供することができる。
2. 多職種カンファレンスを充実させ、患者中心の医療を推進する
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

## I. 病床数構成 総病床数： 55床

一般病床 50床 COVID-19病床 5床

## II. 患者の動向（2024年度）

入院患者数	17,733名
一日平均患者数	49.9名
平均在院日数	25.7日
平均年齢	75.2歳
病床利用率	88.3%
新型コロナ患者数 (延べ人数)	379名
OP件数	8件
CP使用率	12.8%

## III. 看護職員数（2025年4月1日現在）

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	35名
非常勤職員	1名
看護助手	2名

#### IV. 主な疾患・治療・検査

2022年4月より総合診療内科、脳神経内科の混合病棟となり、主にパーキンソン病やALS等神経筋難病患者の診断・加療や、リハビリ目的、パーキンソン病のDBS調整などの入院受け入れを行っている。また、家族の介護負担を軽減するためにレスパイト入院受け入れをおこなっている。陰圧室を有しておりCOVID-19罹患患者の受け入れも行っている。2022年10月より障害者施設等7:1入院基本料に変更となり脳神経内科の長期入院患者が増えた。

#### V. 看護

1. 毎週1回ケースカンファレンスを行い、受け持ち患者の情報整理、患者家族の思いの確認を行い看護計画の見直しを行った。受け持ち看護師としての意識付けにもつながった。
2. 多職種カンファレンスや倫理カンファレンスのシステムを整え、患者にとって最善のケアについて検討し実践に繋げることができた。また、デスカンファレンスを行いケアの振り返りができた。
3. 長期療養中の患者のリフレッシュのために、季節ごとのレクリエーションや誕生日会、散歩などを企画・運営した。また認知症ケアの一環として風船バレーやお茶会などを実施した。

#### VI. 研修受講

松永亮太（副看護師長）	看護補助者の更なる活用のための看護管理者研修
田島吉雅	令和6年度実習指導者講習会
舘林愛	令和6年度実習指導者講習会
竹ヶ原陽子	令和6年度神経・筋難病看護エキスパートナース研修
小林真央	令和6年度災害派遣医療チーム研修 令和6年度災害医療従事者研修
高橋奈央	令和6年度院内感染対策研修
久積千穂	令和6年度独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修

# 看護部－8 病棟－

看護師長 福田 綾子

## 基本方針

1. 患者家族が安心して納得のいく看護の提供
2. 病院経営基盤の安定化に向けた経営参画
3. 看護の質向上に寄与できる自律した人材の育成

## 目標

1. 根拠に基づいた看護過程(介護過程)の展開を実践できる
2. 患者・自分自身を守る行動を常に考え実践できる
3. 専門的知識・技術・態度を自ら習得できる人材を育成する

## I. 病床数構成 総病床数：60 床

(療養介護サービス対象病床：54 床)

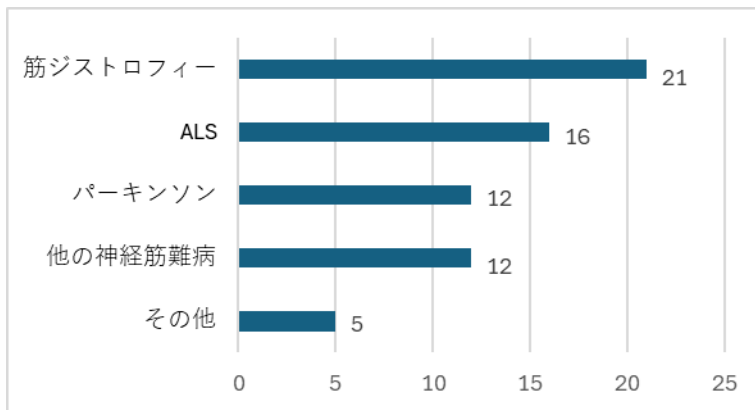
## II. 患者の動向（2024 年度）

入院患者数	57 名
一日平均患者数	57.7 名
退院患者数	68 名
平均年齢	67.1 歳
病床利用率	96.3%
手術件数	4 件
人工呼吸器使用数	45.4 台
療養サービス対象数	45.7 名

## III. 看護職員数（2025 年 4 月 1 日）

看護師長	1 名
副看護師長	2 名
看護師	37 名
非常勤看護師	3 名
療養介助専門員	14 名
療養介助員	1 名
看護助手	1 名
業務技術員	1 名

#### IV. 主な疾患



#### V. 看護

1. 根拠に基づいた看護過程(介護過程)の展開を実践できる  
カンファレンス係を中心に毎日のカンファレンスを計画し、看護師・療養介助員にてケア検討看護計画の追加修正を行った。また、毎週水曜日に多職種カンファレンスを開催し、患者ケアの検討を行った。介助員研修では日々の患者ケアを通して、自己の行動を振り返ることで、自己の介護観を見つめ直し、倫理的視点も踏まえた介護過程を展開している。
2. 患者・自分自身を守る行動を常に考え実践できる  
人工呼吸器チェック時の指差呼称の徹底や、患者のベッドサイドを離れる際のテストコールを実施した。しかし、今年度は患者ケア・体位変換後の設置忘れや、他患者のアラーム対応で離れた後の最終確認不足にてナースコールの設置忘れがあった。患者の元を離れる際の指差確認の徹底と介助者同士の声かけなど強化が必要である。患者誤認、内服未投与など確認不足によるインシデントが26件発生しており、指差呼称の確認行動の指導が必要である。
3. 専門的知識・技術・態度を自ら習得できる人材を育成する  
人工呼吸器についてはMEと連携し人工呼吸器・装着患者の看護について勉強会を実施している。職員のレディネスに応じたレベルアップ学習計画が必要である。・2回/年接遇チェックリストを用い自己・他者評価を実施した。虐待防止の視点からスタッフ同士の言動で気になる点は注意しあえる職場風土の醸成に努めている。

#### VI. 看護研究・学会発表・研修受講

福田 綾子 (看護師長)	令和6年度障害者虐待防止対策研修 令和6年度認知症ケア研修
大平千絵 (副看護師長)	令和6年度障害者虐待防止対策研修
柏原史弥 (副看護師長)	令和6年度認定看護管理者教育課程 (ファーストレベル) 令和6年度医療安全管理者研修
宮崎ちひろ	令和6年度実習指導者講習会

# 看護部－手術・中材－

看護師長 松尾 多美子

## 基本方針

- 1.各部署と連携を図り、安全で質の高い手術医療を提供する
- 2.安全で専門性の高い内視鏡検査・治療を提供する
- 3.院内で使用する医療器材を管理し、安全で確実な物品供給を行う

## 目標

1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことが出来る
2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める
3. 病棟応援など病院の患者への看護ケア提供の向上に貢献する

## I. 病床数構成 手術室 3 室 (BCR1 室)

内視鏡室 2 室

## II. 患者の動向 (2024 年度)

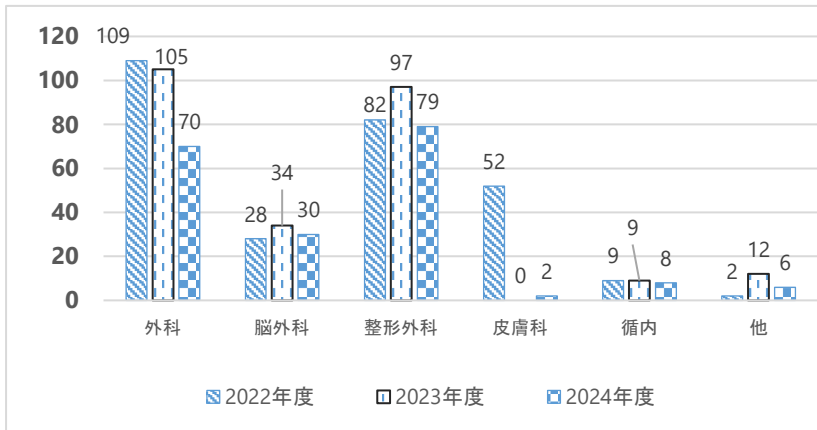
月平均手術数	16.2 件
手術平均年齢	75.5 歳
緊急手術件数	14 件
全身麻酔症例数	72 例
麻酔科麻酔件数	57 件
自家麻酔症例数	138 件
月平均内視鏡検査数	70.6 件
緊急内視鏡検査数	35 件

## III. 看護職員数 (2025 年 4 月 1 日)

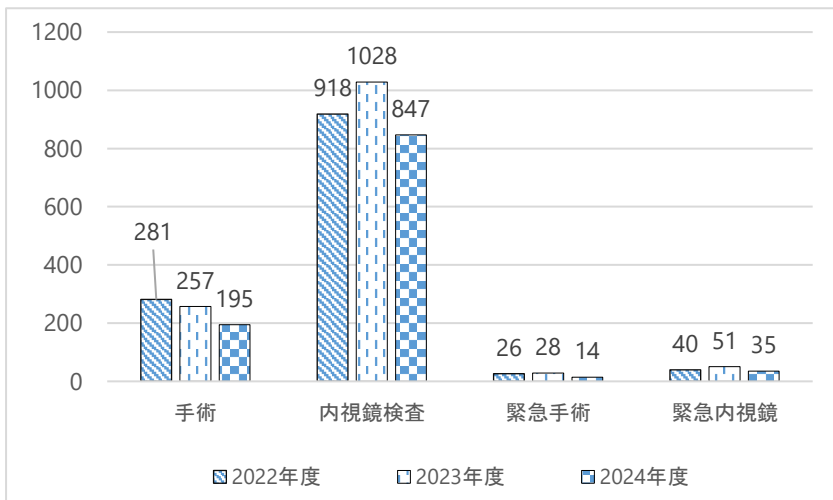
看護師長	1 名
看護師	8 名
非常勤看護師	1 名

#### IV. 手術・検査実施件数

##### 1. 診療科別手術件数推移



##### 2. 手術・検査件数推移



#### V. 看護

##### 1. 手順書を確認することにより個人差なく手術看護、検査介助が行うことができる

- 1) 手術手順書・内視鏡検査手順書を随時更新し、介助前に手順書を確認することで準備・介助とも個人差は減少している。外科手術の術前カンファレンスに参加し、症例情報を医師と共有することで、手術準備などに活かすことが出来ている。症例数の少ない手術や検査は手順書に沿ってシミュレーション学習会を行い、緊急対応に備えている。

##### 2. 専門知識の維持更新により、看護実践力を向上に努める

- 1) 院外研修参加は手術室学会主催研修 2 回に延べ 6 名参加、Web 研修はメーカーの手術機器の取り扱いなど 4 回に延べ 8 名参加した。部署学習会は 9 回、記録、体位固定、手術・検査手技など実践につながる専門知識・技術の習得を図っている。

### 3. 病棟応援など病院の患者への看護ケア提供の充実に貢献する

- 1) 自部署業務以外は外来、病棟応援を積極的に行い、入院・外来患者の診療補助・看護ケアの充実に貢献している。救急外来夜勤時も救急外来対応時間以外は病棟の患者ケアの応援を行っている

### 4. その他

内視鏡検査オーダーの薬剤指示や既往歴の間違い対策の為、11月に手術室内視鏡室運営委員会より医局会で説明し、12月に院内情報WEBのマニュアルに消化器内科医師作成の「内視鏡検査における鎮痙剤や抗血栓薬の取り扱いについて」を掲載した。

## VI. 研修・講習会受講

松尾多美子（看護師長）	令和6年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ
-------------	-----------------------------

# 看護部－外来－

看護師長 毛利 由加

## 基本方針

1. 予約診療を基本とし、各診療科・地域医療連携室との連絡・調整を密に行い迅速でスムーズな診療が受けられるよう配慮する。
2. 常に患者へ目と心に向け、細やかな対応による診療介助を行い、患者の不安や苦痛軽減に努める。
3. 患者のプライバシーが守られるよう、環境への配慮・個人に関する情報の管理を徹底する。
4. 患者に安心して気持ちよく受診していただけるよう清潔で安全な環境整備に努める。
5. 外来で行われる検査や手術についてクリティカルパスやパンフレットを使用し、患者の十分な理解と納得が得られ、安全で確実な看護実践を目指す。
6. ネットワークを活用し地域に根差した質の高い医療の提供を目指す。

## 目標

1. 倫理カンファレンスの定着により倫理感性の醸成及び意思決定支援の推進を図る。
2. 他部門、多職種との連携を強化し、在宅支援、継続看護につなげる。
3. 外来における看護記録の必要性を理解し、看護記録の充実及び強化を図る。
4. 根本原因分析の実施により医療安全に対する意識の向上を図る。
5. 外来待ち時間調査を実施し、問題把握・検討、改善策を実施する。

## I. 診療科構成

脳神経内科、循環器内科、消化器内科、代謝内科、総合診療内科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、歯科、乳腺外科、呼吸器内科

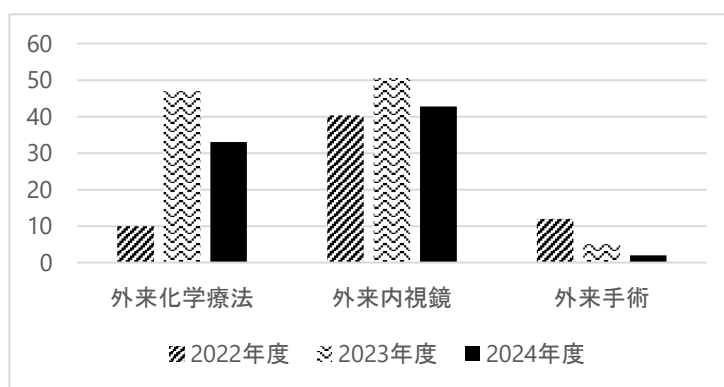
## II. 患者の動向（2024年度）

1日平均外来患者数	111.9名
新患者数（平均）	289名
延患者数（平均）	2250.3名
紹介患者数（平均）	187.9名
逆紹介患者数（平均）	227.5名
救急患者数（平均）	208.5名
救急車台数（平均）	65.2件

## III. 看護職員数（2025年4月1日）

看護師長	1名
副看護師長	1名
看護師	5名
非常勤看護師	3名
外来クラーク	3名
看護助手	1名

## IV. 主な治療・検査



## V. 看護

1. 在宅療養支援介入後の患者に対し、3.7例/月のカンファレンスを実施することで、継続ケアに繋がった。
2. 病棟より在宅療養支援依頼のあった患者の79.6%に介入した。
3. 入院時の説明に同席し、反応や同意の確認と看護記録記載の充実を図り、緊急入院患者への記載率が上昇した。またADLや社会的情報など意図的に聴取し、記録することを強化している。
4. インシデント発生件数10件、インシデントカンファレンス100%実施し、再発予防・体制強化に努めた。
5. 6月外来待ち時間調査を実施し、待ち時間の実態を把握及び、予約枠の調整等を行った。

## VI. 研修受講

毛利由加（看護師長）	令和6年度院内教育担当者研修
松尾賢史（副看護師長）	DMAT 実働訓練
深草美和	令和6年度独立行政法人国立病院機構認知症ケア研修

# 薬剤部

薬剤部長 阪元 孝志

## 1. 概要

薬剤部目標は、①医薬品の適正使用及びチーム医療の推進（病棟薬剤業務の充実、薬剤管理指導、特にハイリスク薬及び麻薬服用患者への指導の充実、退院時薬剤情報管理指導件数の充実、外来患者に対する薬学的管理の充実）②医療安全の推進（ヒヤリ・ハット事例の収集と対応策の検討、疑義照会事例、副作用症例の収集及び情報共有並びにプレアポイド報告の推進）③病院経営への参画（後発医薬品の使用促進、医薬品在庫の適正化、退院時薬剤情報連携加算への取り組み、薬剤総合評価調整加算への取り組み、がん患者指導管理料「八」の算定）④年次休暇取得の推進（ワークライフバランスを充実させる）掲げ、業務改善・質の向上につながる取り組みを行った。

## 2. 調剤業務

### （1）内用・外用

外来患者については、院外処方を原則としていることから、薬剤部では主に入院患者の調剤を行っている。当院は高齢の患者が多いことや難治性神経・筋疾患(神経難病と筋ジストロフィー等)病棟があることから、簡易懸濁法や一包化による調剤を積極的に行っている。医療安全に関しては、薬剤部のヒヤリ・ハット事例を分析し、複数規格医薬品、名称類似医薬品など取り違いのリスクが高い医薬品について、処方せん等の医薬品の規格の強調、医薬品名に色を着ける表示や医師がオーダ入力する際に注意喚起のメッセージが表示される工夫も実施している。

#### 【処方せん枚数】

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
入院	22,642	24,382	23,997	22,889	23,014
外来院内	1,303	1,459	1,977	1,026	1,079
外来院外	19,418	18,814	18,614	1,7471	1,7387

### （2）注射

注射薬は医療安全を推進する観点から、患者毎に一施用ごとの払い出しを行っている。また、取り揃え時と監査時のダブルチェックにより用法・用量等に加え投与速度及び配合変化等の確認を行っている。患者施用ごとの注

射ラベル（バーコード付）を発行し、注射剤に添付して払い出しており、実施時にバーコードによる認証を行うシステムとなっている。令和6年度は「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂、「薬剤総合評価調整業務マニュアル」の改訂、「ポリファーマシー対策に関する業務手順書」の作成を行った。

【注射せん枚数】

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
入院	25,657	27,904	27,231	30,489	30,034
外来	1,694	1,515	1,323	1,594	1,856

3. 製剤業務

業務として抗がん剤調製や特殊なTPN調製（中心静脈栄養）などの無菌調製および院内製剤を行っている。令和5年度（2023年度）からはTPNの業務拡大をはかり、11件/年（2022年）から243件/年（2023年）と大幅にアップし、また「TPN無菌調製マニュアル」の改訂を行った。抗がん剤調製は、医療安全及び暴露防止の観点から、原則全て薬剤師が調製を行っている。抗がん剤のレジメンは外来化学療法委員会で承認されレジメン登録されたもののみ使用可能となっており、薬剤師による確認の他、システムで投与量及び休薬期間等のチェックを行っている。

【無菌調製件数】

		2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
抗がん剤	入院	99	83	88	67	18
	外来	35	10	8	47	33
TPN	入院	87	82	11	243	117

4. 医薬品情報管理業務

医薬品情報については、毎月厚生労働省から発刊される「医薬品・医療機器等安全性情報」を電子カルテの掲示板にて情報提供するとともに医薬品に関連する通知等についても必要に応じ情報提供している。2017年度よりプレアボイド報告を積極的に行うことを目標に取り組んでおり、報告した事例のうち、特に注意すべき事例の内容については情報共有を行っている。

【日本病院薬剤師会へのプレアボイド報告件数】

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
-------	-------	-------	-------	-------

27	40	54	38	32
----	----	----	----	----

## 5. 医薬品管理業務

医薬品の採用は薬事委員会で決定することとされており、1増1減を原則としている。後発医薬品への切り替えを推進しており、新しく発売される後発医薬品を積極的に薬事委員会に提案し切り替えを行った。2024年度の後発医薬品へ切り替え品目数として3品目と少なかったが、購入額を約116万円削減（薬価換算）できた。来年度においても高額な医薬品をはじめ新規に発売される後発医薬品について随時提案して、病院経営に貢献していきたい。

今年度も昨年度に続き複数の製薬会社で医薬品回収および供給停止などが相次ぎ、その対応に苦慮した。患者に迷惑をかけることがないように日頃より情報のアンテナを張り、在庫管理を気に掛けていきたいと考える。

### 【医薬品採用品目数】

2023年度		2024年度	
内用薬	443（後発品：195）	内用薬	438（後発品：194）
外用薬	162（後発品：58）	外用薬	161（後発品：58）
注射薬	357（後発品：98）	注射薬	357（後発品：102）
合計	962（後発品：351）	合計	956（後発品：354）

## 6. 病棟業務および入院支援

病棟薬剤業務実施工算では、医師の負担軽減及びチーム医療の推進等に取り組んでいる。禁忌薬やアレルギー歴の確認、肝腎機能に応じた処方提案、持参薬に基づく当院処方の提案や処方薬に問題はないか確認を行っている。

薬剤管理指導では、主に患者が医薬品を服用した後の副作用モニタリング等を行っており、副作用に対する支持療法の処方提案、副作用を回避するための代替薬の提案、定期的な検査を必要とする薬剤に対して検査オーダーの提案などを行っている。特にハイリスク薬を服用する患者について、安全使用を念頭に実施してきた。退院時指導については、退院後の服薬管理に役立てられるよう今後も努めていきたい。

2018年度より、タスクシェアリングのひとつとして薬剤部が入院支援センターにおいて手術や観血的処置予定患者および造影検査予定患者の内服薬を把握し、中止する薬剤がないかどうかの確認を行い対応している。

2023年度からは薬剤管理指導料の算定はできないが、地域包括ケア病棟でのハイリスク管理薬を重点に薬剤管理指導に積極的に取り組んでいる。

【薬剤管理指導及び退院時薬剤情報管理指導件数】

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
薬剤管理指導 (ハイリスク薬)	4,425 (1,639)	4,977 (1,991)	5,042 (2,281)	4,311 (2,284)	3,204 (1,441)
退院時薬剤情報 管理指導	608	686	127	84	35

【入院支援センター薬剤師関与件数】

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
210	203	197	187	188

【地域包括ケア病棟 薬剤管理指導（非算定）】

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
154	45	52	152	100

# 治験管理室

薬剤部長 阪元 孝志

## 【概要】

当院の診療圏は、長崎県北部を中心に佐賀県西部地区まで広くカバーしている。また、県央地域保健医療圏の二次救急医療機関である。神経・筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症〈以下、ALS〉、進行性筋ジストロフィー症等の神経疾患）に関する専門医療施設としての診療、循環器疾患等に関する専門的な診療を行っている。

## 【治験管理室体制】

臨床研究部長を治験管理責任者、薬剤部長を治験管理実務責任者、治験薬剤師（CRC）2名（併任）、治験看護師（CRC）1名（併任）、非常勤事務職員1名、会計担当1名を配置している。

治験手順書、治験審査委員会等を整備し、医師、看護師、コメディカルと連携を図り、実施率100%を目標に迅速で信頼できる治験を目指している。

	職名	氏名
治験管理室長（治験管理責任者）	臨床研究部長	福留 隆泰
治験事務局長（治験管理実務責任者）	薬剤部長	阪元 孝志
治験コーディネーター	薬剤師	金澤 絵莉
	薬剤師	金原 沙織
	看護師	岩崎 智子
治験事務	企画課長	野口 弘一郎
	受託・申請書等事務	柴田 さやか

### 【治験実施状況】

治験の実施体制を2003年度より整え、神経・筋疾患の治験を中心に循環器内科、脳神経内科、脳神経外科の治験を積極的に受け入れてきた。

2024年度は脳神経内科領域にて新たな治験の導入ができた。実施症例数を増やせるように被験者スクリーニングを継続して実施していきつつ、新たな治験が導入できるよう製薬会社からの情報収集に努めていきたい。

		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
請求金額（円）		2,252,646	1,972,762	2,225,960	2,652,633
新規	治験課題数	1	0	0	1
	契約症例数	1	0	0	3
	実施症例数	0	0	0	1
	実施率	0%	0%	0%	33%
継続	治験課題数	3	3	2	2
	契約症例数	9	4	4	4
	実施症例数	8	3	3	3
	実施率	89%	75%	75%	75%

### 【臨床研究において積極的に行っていること】

当院は神経筋疾患では、基幹医療施設となっており、神経変性疾患（パーキンソン病及び類縁疾患、ALS、脊髄小脳変性症）や免疫性神経疾患（ギランバレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎など）の診療を積極的に行っている。

また、地域支援病院として、脳血管障害急性期、虚血性心疾患、高血圧症、高脂血症及び糖尿病などの生活習慣病、急性肺炎、呼吸不全の増悪などの患者の受け入れも多い。

## 【今後の方針】

本部より定期的に行われている治験参加意向調査アンケートへの積極的な回答を継続するとともに、国立病院機構内外の共同研究および院内で独自に計画された臨床研究の推進・支援を行う。

既存契約中の脳神経内科領域での新規治験を 1 例でも多くの症例登録できるように努めていきたい。

また、今後も研究者だけでなく組織としても高い見識と運用能力が必要とされるため職員に臨床研究 e-ラーニング研修の受講継続を勧めていく。

# 診療放射線科

診療放射線技師長 中尾 徹弘

## 【概要】

診療放射線科は、医師2名、診療放射線技師6名と助手1名で構成されており、CT・MRIの最新の撮影方法を用いた画像診断や核医学検査等の業務を行っている。3月にCTの管球交換を実施した。更新して11年目となり老朽化は否めないが、故障しないよう日々の十分なメンテナンスを心掛けたい。今後も引き続き医療安全を考慮した保守点検を実施し、神経難病の患者から救急や発熱外来患者まで幅広く対応できるよう日々研鑽し、質の高い画像情報を提供していきたい。また、地域連携病院との共同利用も促進していく。

## 【目標】

- ① 安全で良質な地域医療の実践
  - ・ 職種間の連携強化とチーム医療の充実
  - ・ 検査の説明や相談、同意に基づく納得と信頼の医療
- ② 医療安全及び感染対策の強化
  - ・ インシデント報告の充実、医療安全対策の構築
  - ・ 感染対策の徹底
- ③ 健康増進への環境整備
  - ・ 可能な範囲内で年休取得を推進
  - ・ 快適な職場環境の形成（メンタルヘルスケアへの取り組み）
- ④ 健全経営への活動
  - ・ 経費節減に努める

## 【施設基準】

画像診断管理加算2、報告書管理体制加算

## 【資格】

第1種放射線取扱主任者1名、第1種作業環境測定士1名、衛生工学衛生管理者1名  
X線CT認定技師1名

## 【業績】

学会発表、論文業績等なし

## 【個人被ばく線量（実効線量）】

2024年3月1日～2025年2月28日

医師・看護師の最大値は透視での被ばく、技師の最大値はCT患者介助での被ばく。

法令限度の被ばく線量（平均 20mSv/年）を超える従事者は無し

単位 mSv

職種	人数	平均値	最大値	最小値
医師	10	0.1	0.8	0
放射線技師	6	1.1	2.4	0
看護師	10	0	0.1	0
臨床工学技士	1	0	0	0

【件数実績】（共同利用件数）

年度	CT	MR	RI	一般撮影	透視
2022	3370 (202)	2251 (511)	127(10)	5821	152
2023	3617 (300)	2146 (539)	103(18)	6090	187
2024	3853 (313)	1996 (531)	95(8)	5929	134

# 臨床検査科

臨床検査技師長 黒川 晋一郎

## I. 概要

スタッフは科長以下、9名の臨床検査技師が検体検査・微生物検査・生理検査の3部門に分かれ業務を行っている。R6年度の人事異動は3名（主任技師2、技師1）であった。各種認定資格取得者を配置し、迅速かつ精度の高いデータ提供に努めている。異動や欠員時のカバー体制に備え、部署間のサポート体制もより強化した。

目標は「働きやすい職場環境づくり」を第一に挙げた。特に円滑なコミュニケーション、「報・連・相」のしやすい職場環境作りが職場で取り組む課題全ての根幹と考え、年間を通して取り組んだ。

COVID-19関連検査に関しては、感染症分類5類への移行を機に依頼件数も大幅に減少し以後100件/月前後で推移している。

機器については、導入後10年以上経過した古い機種が3台（超音波検査機器：19年目、血糖測定機器：14年目、HbA1c測定機器：14年目、免疫測定装置：12年目）稼働していることが不安要素ではある。特に超音波検査機器はスペック的に問題があり（画質・計測等）、修理不能機種でもある。また、免疫測定装置は、令和9年3月末をもってサポート終了のため早めの更新が望まれる。

### 【令和6年度目標】

1. 働きやすい職場環境づくり
2. 良質な検査データの提供
3. 人材育成

### 【スタッフ】

科長（脳神経外科部長兼任）	1名
技師長	1名
副技師長	1名
主任	3名
技師	4名

【認定資格取得者】

資格名	取得者数
細胞検査士（国内、国際）	1名
二級臨床検査士（微生物学）	1名
認定心電検査技師	1名
超音波検査士（循環器）	3名
”（消化器）	3名
”（体表臓器）	3名
”（泌尿器）	1名
緊急臨床検査士	1名
2級日本不整脈心電学会心電図検定	1名
有機溶剤作業主任者	2名
特定化学物質等作業主任者	2名
毒物劇物取扱責任者	1名

II. 状況

1. 外部精度管理

公的（日本医師会、長崎県医師会）精度管理、メーカーサーベイ等、外部精度管理調査を受審し、検体検査の精度管理に努めている。

【日本医師会精度管理結果】

	評価評点	C評価	D評価
2022年度	99.2	0	0
2023年度	97.3	0	0
2024年度	96.6	0	0

## 2. 件数実績

### 【検体検査】（入院+外来）

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
検体検査総数（入院+外来）	311,528	276,656	296,400
一般	9,416	8,618	8,371
血液	35,445	32,527	34,048
生化学・内分泌	238,294	215,914	233,987
免疫	24,048	15,082	15,167
微生物	4,324	4,515	4,827
その他	1	0	0
外部委託	4,430	4,152	3,627

### 【COVID-19 検査】（PCR、TRC、ID NOW）

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
入院	2,362	646	368
外来	6,557	1348	998
職員	7,032	1	0

### 【生理検査】（入院+外来）

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	
生理検査総数（入院+外来）	5,779	5,438	5,377	
超音波検査 内訳	心臓	909	865	898
	頸動脈	243	206	175
	腹部	427	393	354
	乳腺	46	69	70
	甲状腺	158	155	153
	下肢静脈	238	196	226
	体表、その他	174	91	49

## 3. 業績等

検査科内での勉強会を月 1 回実施。

学会発表、論文等はなし。

# リハビリテーション科

副理学療法士長 錦戸正樹

## 《リハビリテーション科理念》

地域に根付き、家庭・社会への復帰を目指した総合的なリハビリテーションを提供します。

急性期～維持期の対象者に必要なリハビリテーションを実施します。

## 《目標》

- 1) 包括病棟のリハビリ基準を達成し、病棟機能の維持を図る
- 2) 診療報酬に基づいた適正な診療を実施する
- 3) リハビリテーション実績の向上に取り組む
- 4) 他部門との連携強化を図り、質の高いリハビリテーションを提供する
- 5) 感染対策や医療安全について理解し、安全なリハビリテーションを提供する
- 6) 学会への積極的な参加・発表など自己研鑽を図る

## スタッフ

リハ科医長(兼任) : 1名

定員 理学療法士 : 10名 作業療法士 : 5名 言語聴覚士 : 3名

非常勤職員(助手)2名

## 施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 廃用症候群リハビリテーション料 (I)

運動器疾患リハビリテーション料 (I) 呼吸器疾患リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

## 週間スケジュール

・神経内科病棟カンファレンス (毎週金曜 15:00～)

- ・総合診療内科カンファレンス（毎週火曜 9：15～、木曜 9：00～）
- ・心臓リハビリテーションカンファレンス（隔週水曜 16：30～）
- ・整形外科ラウンド（毎週火曜 15：00～ 現在一時参加中断中）
- ・8病棟カンファレンス（毎週水曜 8：45～ 現在一時参加中断中）
- ・NSTラウンド（毎週木曜 15：00～）
- ・口腔ケアラウンド（毎週木曜 15：00～）
- ・緩和ケアカンファレンス（毎週木曜 14：30～）

## 主な対象疾患と特色

対象疾患：神経・筋疾患、整形疾患、脳卒中、呼吸器疾患、外科術前後、脳外科術前後、心不全

特色：治療・検査・レスパイト目的に入院された難病患者に対して病期に応じた対応、脳卒中・整形外科疾患等に早期リハビリを実施している。がん・神経・筋疾患患者への呼吸リハビリテーション、摂食・嚥下障害に対する摂食・嚥下リハビリテーション、神経筋疾患患者への意思伝達装置の調整、心臓リハビリテーションを実施している。地域包括ケア病棟のリハビリテーションを有し、自宅退院を目指し対象に集中的なリハビリテーションを実施している。2023年度から外来心臓リハビリテーションを開始、2024年3月から週2回対応している。

## 2024年度診療実績

	疾患別件数（件）	疾患別単位数（単位）	療法士 1日平均単位
理学療法	16,306	29,679	14.7
作業療法	6,047	10,790	15.0
言語聴覚療法	6,551	9,728	15.6

※摂食機能訓練：2023年4月で算定終了（病棟看護師が算定）

※訪問リハビリテーション：2024年1月で終了

## 施設内活動への参加状況

管理診療会議、月次評価会議、医療安全部会、医療安全推進部会、ICT部会、診療録管理委員会、虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会、NST委員会、口腔ケア委員会、緩和ケア委員会、療養介護運営委員会、個別支援計画会議、防火・防災対策委員会、イベント委員会など

## 研究・発表活動

### 【講義】

- 1) 長崎リハビリテーション学院理学療法学科 1 年 講義「キャリアデザイン」

開催日：2024 年 4 月 16 日

講師：富田浩平

- 2) 伊万里保健福祉事務所 難病患者在宅療養支援研修会

開催日：2024 年 9 月 19 日

講師：森本翼、竹田容子

- 3) 神経・筋疾患看護エキスパートナース研修

開催日：2024 年 11 月 5 日

講師：森本翼、竹田容子

### 【臨床研究】

研究課題名：「フレイル・サルコペニアを合併する慢性呼吸不全に対する

新たな介入戦略の構築」

研究期間：2023 年 7 月～2025 年 9 月

研究責任者：玉木彰（兵庫医科大学 リハビリテーション学部 教授）

当院研究責任者：山田竜一郎

### 【査読】

- 1) 第 34 回長崎県理学療法学会

会期：2024 年 6 月 22 日・23 日 会場：長崎

査読者：山田竜一郎

- 2) 九州理学療法士学会 2024

会期：2024 年 11 月 9 日・10 日 会場：佐賀

査読者：山田竜一郎

3) 第8回日本循環器理学療法学会学術大会

会期：2024年11月23日・24日 会場：宮城

査読者：山田竜一郎

**【新規資格取得】**

齊藤圭祐：心不全療養指導士

連休等の対応

長期連休は交代で出勤（連日ではない）

# 栄養管理室

栄養管理室長 松下 めぐみ

## 1. 概要

スタッフは管理栄養士（栄養管理室長、栄養係）計2名。業務内容は入院患者の食事療養（食事提供）、栄養管理、入院・外来患者への栄養食事指導、食事形態の調整や食欲不振等患者の対応、栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）の運営・活動等、多岐にわたっている。またチーム医療として褥瘡チームにも参画した。

食数管理、調理業務等の給食管理業務は委託化している。

## 2. 業務実績

### ①食事サービス

献立には季節ごとの野菜や果物、魚を随時取り入れた。その中で毎月行事食として季節に合わせた食事の提供を行い、献立内容の充実や特別治療食への提供を拡大した。また患者から希望が多かったメニューの導入を図り、食事満足度を高める工夫を行った。そのため、患者への食事アンケートでは、82%の方が食事に満足していただけている結果であった。

今年度は5品目の新メニューを導入し患者からおいしかったとご意見いただいた。今後も新たなメニューの導入を検討している。

### 2024年度行事食写真



春御膳



あじさい御膳



クリスマス

### 2024年度新メニュー



カレーピラフ



塩焼きそば



ミートローフ

②栄養食事指導件数

2024年度個人栄養食事指導は621件実施。指導疾患は糖尿病、高血圧症、心臓病が多かった。

【栄養食事指導件数】

個人指導				合計
算定		非算定		
入院	外来	入院	外来	
451	104	99	3	621

【管理栄養士による栄養指導代行入力実施件数】合計297件

診療科	提案件数	診療科	提案件数
総合心療内科	85	整形外科	24
脳神経内科	66	消化器内科	17
循環器内科	48	脳神経外科	11
外科	45	代謝内科	1

【疾患別栄養食事指導件数】合計621件

疾患	件数	疾患	件数
糖尿病	223	低残渣食	12
高血圧症	97	肝臓病	12
心臓病	97	腎臓病	11
低栄養	40	肥満症	7
がん	28	胃・十二指腸潰瘍	6
摂食嚥下機能低下	27	貧血症	3
脂質異常症	26	摂食障害	2
膵臓病	15	手術	1
胆石症	13	クローン、潰瘍性大腸炎	1

③特別食加算率

加算率は23.7%。提供数が多かった特別食は糖尿病食、心臓病食であった。

食事療養数	普通食	非加算特別食	加算特別食	加算率(%)
199,541	19,138	133,175	47,228	23.7%

【管理栄養士から加算特別食提案変更件数】合計56件

診療科	提案変更件数	診療科	提案変更件数
循環器内科	13	脳神経内科	8
総合診療内科	12	脳神経外科	2
外科	10	消化器内科	2
整形外科	9		

特別食加算の漏れがないよう入院時・入院中に特別食該当患者を抽出し、主治医へ連絡。変更提案件数は56件だった。

#### ④栄養サポートチーム（NST）について

2024年度は診療報酬改定に伴い、入院時スクリーニングにMNA-SFを導入し、GLIM基準での栄養評価を取り入れ栄養管理体制の見直しを行った。入院時のみならず、定期的な再評価、退院時評価を行うことで栄養管理体制を強化した。

#### 栄養サポートチームラウンド・カンファレンス件数

	3階病棟	4階病棟	6階病棟	8病棟	合計
加算	56	0	19	2	77
非加算	0	25	33	16	74

※一般病棟（3階病棟）：週1回算定可能

障害者病棟（6階病棟・8病棟）は月1回 入院日より180日以内 算定可能

地域包括ケア病棟（4階病棟）：栄養サポートチーム加算算定は包括点数に含まれるため非算定。

151件のうち、加算件数は77件で栄養サポートチーム加算15,400点であった。

#### ⑤患者食糧費経理状況

2024年度も前年度と同様、食材料単価の高騰を踏まえ、経費削減のための対策を検討。廃棄処分の食材を極力減らすべく、発注変更や食材選択、さらに献立作成においても適切な食品選択、食材単価をみながら献立調整を行い、適正価格での食事提供に努めた。

年間消費額	1食あたりの実行単価
60,513,086円	303.26円

#### 3. 学会発表・講師・講演会・テレビ出演等

2025.1.21

変わる「病院食」楽しみながら健康に波佐見焼の器に美しい盛り付けも NBC長崎放送 金子友美

# 臨床研究部

## 1-1 治験

・二次性全般化発作を含む部分発作を有する16歳以上のてんかん患者に対するBRIVARACETAM併用投与における長期安全性及び有効性を評価するための非盲検、多施設共同、長期継続投与試験(戸田)

・NPC-22の慢性流涎症患者を対象とした第II/III相試験:ノーベルファーマ(福留)

## 1-2 EBM

冠動脈疾患疑い・既往患者を対象とした既存の2つのNHO多施設共同前向きコホート研究の臨床およびバイオマーカーデータを利活用して、人工知能(AI)により、全死亡、原因別死亡、心脳血管腎アウトカム、大出血イベントを包括的に精密予測するモデルを確立する研究

## 1-3 機構研究

・簡便な新規心血管イベント予知マーカーによる効率的なハイリスク患者抽出方法の確立(採択番号H30-NHO(循環)-03)(二宮)

・グラム染色画像深層学習による新規薬剤耐性菌モデルの開発と検証:R5-NHO-03(大野)

## 2 競争的資金

・MuSK活性化剤の生物活性・毒性評価および筋無力症動物モデルを用いたPOCの確立(樋口・分担)・AMED

・スモンに関する調査研究班(福留・分担)・厚労省

## 3 特許

抗原固相化デバイス:特願2022-131213(樋口)

## 4-0 業績発表(英文)

- 1 Tanaka K, Nagaishi A, Matsui M. Autoimmunity to ion channels in neurological diseases - Autoimmunity to aquaporin water channels. *Neurol Clin Neurosci* 2024;12:3
- 2 Nakane S, Mukaino A, Okumura Y, Hirokawa H, Higuchi O, Matsuo H, Kainuma M, Nakatsuji Y. The Presence of Ganglionic Acetylcholine Receptor Antibodies in Sera from Patients with Functional Gastrointestinal Disorders: A Preliminary Study. *J Pers Med* 2024;14:5
- 3 Takagi A, Miyoshi T, Hayashi T, Koizumi H, Tsumagari K, Yokota C, Nakano T, Matsuo K, Egawa T. Comparison of preventive effects of combined furosemide and mannitol versus single diuretics, furosemide or mannitol, on cisplatin-induced nephrotoxicity. *Sci Rep* 2024;14:1
- 4 Nakane S, Matsuo H, Nakatsuji Y. Immunological and therapeutic insights in autoimmune autonomic ganglionopathy: What is the position of apheresis in immunotherapy?. *Transfus Apher Sci* 2024;63:4
- 5 Kensaku Yanai 1, Sunao Takahashi 1, Itsuki Soejima 1, Ayako Oniki 1, Toshiya Matsuda 1, Shoichiro Ishihara 1, Osamu Higuchi 2, Hiroyuki Tomimitsu 1. Unusual Presentation of Double-seronegative Myasthenia Gravis with Positive Anti-LRP4 Antibody: Diagnostic Utility of a Videofluoroscopic Swallowing Study. *Internal Medicine* 2025;64:2

## 4-1 業績発表(和文)

- 1 本山 高啓, 松岡 優毅, 黒濱 大和, 永石 彰子, 戸田 啓介, 中島 正洋. 高齢発症膠肉腫の1例 - 剖検時に採取された脳腫瘍圧挫標本の細胞像 -. *日本臨床細胞学会九州連合会雑誌* 2024;55:67-70
- 2 福留隆泰. 難病医療 筋萎縮性側索硬化症と封入体筋炎の診断に苦慮した2症例. *難病と在宅ケア* 2024;30:9

#### 4-2 業績発表(学会発表)

- 1 安藤 和雅子. 長崎川棚医療センター地域包括ケア病棟における薬剤師の取り組み. 第48回九州地区国立病院薬剤師会 薬学研究会
- 2 田代 紘士. P-mSHELL 分析により業務の見直しにつながった1例. 令和6年度 佐賀・長崎地区国立病院薬剤師会 薬学研究会
- 3 永石彰子. 発症19年後に神経核内封入体病と診断した一例. 第245回日本神経学会九州地方会
- 4 永石彰子. 免疫グロブリン大量療法の長期反復が有効と考えられた封入体筋炎の2症例. 第36回日本神経免疫学会学術集会
- 5 草野 晋平. 身体所見が契機となり診断された進行期乳房外パジェット病の一例. 日本プライマリ・ケア連合学会長崎県支部会 第12回学術集会・講演会 ポスターセッション
- 6 倫理委員会

1	症例報告: Transabdominal transdiaphragmatic pericardial window in cancer-related pericardial effusion: impact of operative technique	副院長 寺田 隆介	迅速
2	冠動脈疾患疑い・既往患者を対象とした既存の2つのNHO 多施設共同前向きコホート研究の臨床およびバイオマーカーデータを利活用して, 人工知能(AI)により, 全死亡, 原因別死亡, 脳血管腎アウトカム, 大出血イベントを包括的に精密予測するモデルを確立する研究(採択番号:R6-EBM(心脳)-02)	循環器内科部長 二宮 暁代	迅速
3	長崎県における重症筋無力症の疫学調査	臨床研究部長 福留 隆泰	迅速
4	薬剤情報提供サービス(システム)の導入について	総合情報管理室長 宮崎 哲彦	委員会
5	看護師の職務継続に関する調査 - 中堅看護師の職務継続への支援方法の検討 -	看護師長 松本 深雪	迅速
6	越境経験と病院に勤務する看護管理者のキーコンピテンシーとの関連	看護部長 安藤 内美	迅速

#### 7 収益

AMED	54,550,000
共同研究①	117,196
厚生労働省難治性疾患政策研究事業	400,000
治験②	3,191,622
助成金	18,787,500
総計	77,046,318

共同研究①	共同研究
内容	合計 / 金額
平成 30 年度 NHO ネットワーク共同研究(H30-NHO(循環器)-03)	5,500
令和 6 年度 EBM・ネットワーク共同研究(R6-EBM(心脳)-02)	20,000
長崎医療センターとの共同研究に係る分配金配分 総合診療科	91,696
総計	117,196

治験②	
治験名等	総計
EP0085(UCB ジャパン:BRIVARACETAM 併用投与)	2,002,358
契約 No.139 NPC-22-5(中外製薬:サトラリズマブ第III相)	1,189,264
総計	3,191,622

(文責 臨床研究部長 福留 隆泰)

# 医療相談支援センター－地域医療連携室－

地域医療連携室係長 富永 文子

## 基本方針

1. 患者の安心安全を考慮した退院調整と前方連携の実施
2. 患者のための多職種チーム医療の実践

## 目標

1. 患者・家族の思いを尊重した退院支援を実施する
2. 組織の一員として病院経営の安定化に向けた経営参画ができる
3. 自部署の課題に対し戦略的思考で取り組むことができる

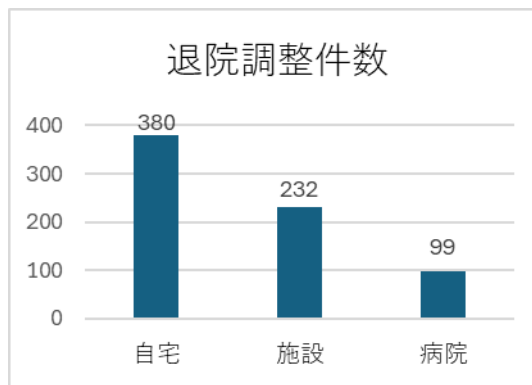
## I. 患者の動向（2024年度）

診療予約件数	852件
共同利用件数 CT	312件
MRI	531件
内視鏡	122件
その他	27件
入退院支援加算1（700点）	428件
介護支援等連携指導料（400点）	116件
多機関共同指導加算（2000点）	1件
支援相談件数	460件
入院支援センター介入件数	422件
転院受入れ相談件数	85件

## II. 看護職員等数（2025年4月1日）

看護師長	1名
看護師	2名
医療社会事業専門員	2名
事務助手（看護部）	1名
事務助手（事務助手）	2名

### Ⅲ. 退院調整先・調整件数



### Ⅳ. 紹介率・逆紹介率

#### あじさいネット登録患者数（2024年度）

紹介率（50%以上）	87.9%
逆紹介率（70%以上）	111.2%
あじさいネット登録患者数	293件

### Ⅴ. 看護

1. 退院支援スクリーニングにて退院困難要因を抽出し、患者・家族との面談にて意向を確認し退院支援カンファレンスにて多職種で退院後の生活に視点を置き問題点を検討し解決に向け取り組んだ。患者の高齢化から元の場所へ戻れないことも多く支援に時間を要する傾向にあった。病棟看護師が行う患者の退院に向けた支援の状況を確認しながら調整を図っていった。また、早期から地域の関係機関やケアマネージャーと連携を図り、時期を逃さず退院に繋がる退院支援を行った。
2. 退院支援スクリーニングと二次スクリーニングカンファレンスを実施し退院調整を進め入退院支援加算Ⅰ取得に繋がった。また、入院早期から患者の安心につながる退院に向け地域のケアマネージャーと連携しカンファレンスを開催することで介護支援等連携指導料の取得を実施した。
3. 部署内で対応している患者の情報共有を図り、担当者不在時もタイムリーに対応することや部署内でのタスクシェアを取り入れ補完し取り組んだ。また、地域における当院の役割を明確にし、地域の施設や行政と情勢を確認し情報共有と連携を図り入退院の円滑化を図っていった。

### Ⅵ. 研修受講

富永文子（看護師長）	入退院支援に関する実践能力向上研修 （実習後フォローアップ研修 講師）
大井手春香（看護師）	令和6年度入退院支援に関する実践能力向上研修
西田美穂（MSW）	令和6年度医療メディエーター研修

# 危機管理センター－医療安全管理室－

医療安全管理係長 南 聡美

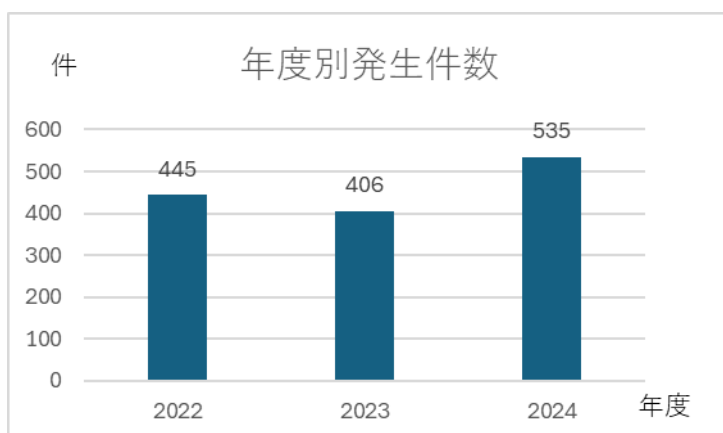
## 基本方針

1. 医療安全に対する職場風土の醸成
  - 1) 病院職員のリスク感性を高めるための活動・人材育成
  - 2) “人は間違えるものである”という認識を持ち、継続した教育とシステム改善
2. 患者参加型のチーム医療の実践

## 実績

### I. インシデント状況

#### 1. 発生件数（件）



#### 2. レベル分類別件数（件）

	2022年度	2023年度	2024年度
0	63	70	133
1	108	117	108
2	179	164	224
3a	57	30	48
3b	15	10	115
4以上	0	2	0
評価困難	15	13	7

### 3. 主な内容（件）

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
与薬	56	56	66
点滴注射	24	24	35
処置関連	9	9	14
検査関連	48	52	39
チューブ	36	29	38
人工呼吸器関連	7	4	5
転倒転落	94	101	162
療養上世話	14	10	37
皮膚損傷	24	8	26
患者誤認関連	9	9	13

### 4. レベル 3b 事例 15 件

- 1) チューブに関する事 1 件
- 2) 転倒転落に関する事 13 件
- 3) その他（自傷） 1 件

### 5. レベル 4 以上事例 0 件

## II. 医療安全研修

実施時期	研修内容	受講率
2024. 4 月	MRI 検査における医療安全	99.4 %
2024. 7 月	薬剤と転倒転落	99.0%
2024. 9 月	虐待防止法の理解と対応	99.3%
2024.11 月	診療放射線の安全利用	94.7 %
2025. 1 月	身体拘束適正化に向けて	94.3%
2025. 2 月	医療ガス	95.8%

## III. 医療安全相互チェック

### 1. NHO 医療安全相互チェック(オンライン)

2024 年 11 月 対象病院：医王病院

実施病院：長崎川棚医療センター

オブザーバー病院：あきた病院

## 2. 地域連携における相互チェック

2024年12月 加算2 (諫早記念病院 訪問)

2025年1月 加算1 相互チェック(市立大村市民病院)

## IV. 今年度検討を行ったこと・新規導入したこと等

- ・ハリーコールフローチャート改訂
- ・離院発生時の対応マニュアル改訂
- ・身体拘束チェックリスト導入
- ・与薬フローチャート改訂

## V. 研修・講習会受講

南 聡美 (医療安全管理係長)	令和6年度医療安全対策研修Ⅱ
	令和6年度障害者虐待防止対策研修
	令和6年度九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ

# 危機管理センター – 感染管理 –

感染対策室 内野めぐみ

## 基本方針

感染対策室は、医療行為に関連した病院感染症の予防と制圧および医療従事者の職業上の安全と健康を担当する部門であり、病院内のすべての領域に関与して横断的な活動を展開する役割を担っている。

## I. 実績

### 1. 入院患者の感染対策 実施率 (%)

血液培養 2 セット実施率	94.9%
広域抗菌薬適正使用時の細菌培養実施率	100%
手術開始前 1 時間以内の予防的抗菌薬投与実施率	96%

### 2. 施設基準など取得状況 (2025 年 3 月現在)

- ・感染対策向上加算 2・・・175 点
- ・連携強化加算・・・・・・ 30 点
- ・サーベイランス強化加算・・・5 点

## II. 感染対策に関する教育・研修

1. 2024 年度新採用者教育
2. 手指衛生の啓発 各月・毎週の手指消毒薬使用量を集計し、各部署に結果をフィードバック
3. 個人防護具着脱手順の指導とチェック表に基づいた確認の実施 (看護部)
4. 看護実践能力開発講座 (7 月・1 月) 実施

## III. 病院職員の健康管理

1. 新採用者・異動者の 4 種価抗体チェック
2. 季節性インフルエンザワクチン接種
3. B 型肝炎ワクチン接種 (1・2 回目実施)
4. 体調不良職員の受診調整

#### IV. 感染発生の動向監査

1. 1回/週、ICTメンバーが院内巡視活動を実施し、感染対策実施の確認と指導を行っている。
2. 手術部位感染サーベイランス（JANIS）2024年度手術部位感染発生率前期5.5%、後期3.4%であった。発生した患者の背景は超高齢かつ穿孔を伴う汚染創であり手術部位感染を起こすリスクが高い患者であった。
3. 感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）手指消毒遵守率2024年4月～2025年3月2つのタイミングで入退室時の遵守率は68～83%。入室時が63～80%と退室時と比較すると低い傾向にあった。

#### V. 抗菌薬の適正使用（2025年3月現在）

抗菌薬適正使用チームでは、薬剤師が中心となり、特定抗菌薬の届出患者の確認、適正使用に対する介入と2週間以上の長期投与患者について週に1回カンファレンスした。抗菌薬の変更や画像評価などの提案件数10/48件

#### VI. 加算施設との合同カンファレンス

地域連携加算施設と年4回WEB+現地集合にて合同カンファレンスを実施した。新興感染症対策に関する机上訓練、新型コロナウイルス5類以降後の各施設の対応について情報共有した。地域連携指導強化加算連携のため加算1施設と合同で環境ラウンドを年1回実施した。陰洗ボトルの不十分な乾燥、処置室の冷蔵庫の管理など指摘事項を院内全体で情報共有し改善に繋がった。

#### VII. 感染対策のための職員研修

2024年度 開催日	テーマ	講師	受講率
5月8日～6月14日	マダニ媒介感染症 重症熱性血小板減少症候群の感染予防について	ICN 総合診療内科医師	97.8%
12月6日～ 2025年1月17日	感染対策の原点に戻ろう～手洗い・マスク・个人防护具の着脱方法を中心に～	ICN	99%

# 医療機器管理室

医療機器管理室長 津田 真実

## 臨床工学技士業務、実施件数報告

臨床工学技士 2 名在籍。

主な業務：

医療機器管理室内の業務（医療機器の管理・点検など）、血液浄化業務、手術室業務、ペースメーカー関連業務、使用中の人工呼吸器管理、勉強会・説明会開催など

### ① 医療機器管理（貸出・返却・点検）

・貸出し前点検、定期点検、修理（メーカー手配合む）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
保守点検 修理業務	貸出	81	78	73	67	83	71	82	81	80	54	68	44	862
		70	75	43	68	56	47	85	71	46	60	75	71	767
	返却	89	71	87	56	83	67	90	72	63	72	61	68	879
		47	92	75	51	61	46	64	75	50	67	66	59	753
	貸出前点検	87	73	79	48	83	68	88	64	66	61	54	56	827
		48	80	56	56	60	45	71	77	46	57	80	58	734
	定期点検・修理	23	18	11	16	8	5	6	9	41	22	28	14	201
		18	30	26	6	14	8	19	7	7	30	22	22	209

※赤文字：2024 年度、灰色背景：2023 年度

### ② 手術室

・DBS、ITB、VNS など手術立ち合い

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
DBS (脳深部刺激療法)	新規植込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
	IPG交換	2	1	2	1	2	2	1	0	1	1	0	1	14
		1	0	1	0	2	4	2	0	1	2	2	1	16
ITB (バクロフェン髄注療法)	IPG交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフィル	1	2	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	12
		0	2	1	0	2	1	1	0	1	1	2	0	11
VNS (迷走神経刺激療法)	新規植込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	IPG交換	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
		0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
SCS (脊髄刺激療法)	IPG交換	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※赤文字：2024 年度、灰色背景：2023 年度

血液浄化業務 (アフレスイス業務)

単純血漿交換、CHDF、PMX、腹水濾過濃縮再静注法、GCAP

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
血液浄化 業務	単純血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
	J039:4,200点	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	CHDF(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	J038-2:1,990点	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	7
	PMX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	J041:2,000点	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	腹水濾過濃縮	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
K635:4,990点	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
GCAP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
J041-2:2,000点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※赤文字：2024年度、灰色背景：2023年度

③ 人工呼吸器管理業務

- ・ 回路交換後の確認(8病棟は2回/週)
- ・ 人工呼吸器の設定や動作確認 (10~40件/日)
- ・ トラブル対応

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
人工呼吸器 管理業務	ラウンド	365	385	343	328	299	362	464	453	496	358	356	355	4564
		318	429	488	415	289	173	419	328	341	383	382	268	4233

※赤文字：2024年度、灰色背景：2023年度

④ ペースメーカー関連業務

- ・ 植込み、交換時の立会い (プログラマー操作等)
- ・ 外来のフォローアップ (5~6人/週) (毎週金曜 9:00~12:00)
- ・ 他科手術時設定変更など

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計件数
ペースメーカー 関連業務	外来 フォローアップ	15	12	20	17	2	15	16	18	8	16	6	10	155
		23	15	18	17	9	11	15	13	19	16	3	15	174
	入替術後チェック	0	0	0	2	0	4	0	0	0	3	1	0	10
		0	2	3	2	0	0	1	0	1	0	0	2	11
	手術立会い	0	0	0	1	1	3	1	1	0	2	1	1	11
		0	2	1	1	0	2	1	0	1	0	0	1	9
	MRI立会い	0	1	2	1	2	0	0	1	1	2	0	0	10
0		0	1	1	0	3	0	1	1	0	0	1	8	

※赤文字：2024年度、灰色背景：2023年度

医療機器安全使用研修会

・勉強会、説明会の実施

2024 年度の実施件数 27 回（人工呼吸器関係 22 回、その他 5 回）

・対面による研修

日時	場所	内容	対象者	参加者数
4月4日(木)10:00~11:00	8病棟	人工呼吸器の取扱について	看護師	1名
4月10日(金)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器とは	看護師	2名
4月17日(水)14:00~14:30	養気軒	輸液ポンプ・シリンジポンプの使用方法について	新人看護師	7名
4月18日(木)14:30~15:00	8病棟	従量式・従圧式呼吸、S/Tモード	看護師	2名
4月25日(木)14:30~15:30	8病棟	トリロジーEvo、モード(SIMV VC/PC)について	看護師	2名
4月30日(火)8:45~9:00	5階病棟	除細動器(TEC-5631) AEDモードの使用方法について	リハビリ	14名
5月2日(木)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器モナール、BVM換気、モード(AVCV/APCV)について	看護師	2名
5月9日(木)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器トリロジー、持続吸引、分時換気量アラームについて	看護師	2名
5月16日(木)10:30~11:30	8病棟	人工呼吸器モナール、呼気弁対応など	看護師	2名
5月23日(木)14:30~15:00	8病棟	人工呼吸器復習小テスト、回路交換の手順	看護師	2名
5月30日(水)14:00~15:00	8病棟	回路交換実践	看護師	2名
6月1日(金)14:00~15:00				
7月4日(木)14:30~15:30	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	1名

7月5日(金)13:30~15:30				
9月2日(月) 16:00~16:15	手術室	除細動器(TEC-5631)使用方法について	看護師	6名
9月3日(火)、6日(金) 13:45~14:00	救急 外来	除細動器(TEC-5631)使用方法について	看護師	11名
11月1日(金) 14:00~15:00	8病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	1名
11月12日(火) 15:00~16:00	6階 病棟	人工呼吸器トリロジーEvoについて①	看護師	4名
11月27日(水) 15:00~15:30	4階 病棟	人工呼吸器トリロジーEvoについて	看護師	12名
12月2日(月) 11:00~12:00	8病棟	人工呼吸器の取扱について	看護師	1名
12月3日(火)、10日(火) 15:00~16:00	6階 病棟	人工呼吸器モード、アラーム対応について	看護師	6名
1月28日(火) 13:00~14:00	5階 病棟	人工呼吸器取り扱いテスト	看護師	3名
1月30日(木)14:00~ 15:00				
1月31日(金) 14:00~15:00				
3月5日(水) 15:00~15:45	4階 病棟	人工呼吸器の取り扱いについて	看護師	1名

資格等について

1) 所有資格・認定

認定・資格	取得人数	認定学会名
臨床 ME 専門認定士	1	日本生体医工学会 日本医療機器学会
医療機器情報コミュニケーター	1	日本医療機器学会
日本アフェリス学会認定技士	1	日本アフェリス学会
3 学会合同呼吸療法認定士	1	日本胸部外科学会 日本呼吸器学会 日本麻酔科学会
第 1 種 ME 技術者	1	日本生体医工学会
第 2 種 ME 技術者	2	日本生体医工学会
BLS ヘルスクエアプロバイダー	1	長崎 ACLS トレーニングサイト

2) 所属学会

所属学会	役職
日本アフェリス学会	評議員（2025 年総会まで）
日本臨床工学技士会	
日本心血管インターベンション治療学会	

# 事務部—管理課—

管理課長 張本 陽一

## 令和6年度 病院行事

	一般行事	その他
4月	辞令交付式 (4/1) 転入者・新採用者オリエンテーション (4/1) 福岡財務支局共済監査 (4/24~4/26)	
5月	永年勤続表彰 (5/21)	
6月	看護職員採用試験(6/8) 1回目 一般健康診断 (6/10~14) 生涯教育講座 (6/26) 地域医療支援病院運営委員会 (6/27) 東彼地区(波佐見町)公開講座 (6/29)	
7月	川棚高校職場体験 (7/4~7/5) 患者満足度調査(入院7/1~7/31、外来7/8、10) 九州グループ病院訪問 (7/11)	
8月	看護職員採用試験(8/24) 2回目	
9月	ストレスチェック (9/2~23) 監査法人期中監査 (9/24~9/25) 看護職員採用試験(9/26) 3回目 地域医療支援病院運営委員会 (9/26)	
10月	国立病院総合医学会 (10/18~19) 幹部看護師任用候補者選考試験 (10/23) 看護職員採用試験(10/25) 4回目 全館停電作業 (10/26) 病院間医療安全相互チェック (10/31)	
11月	健康フェスタ (11/16) 地域医療支援病院運営委員会 (11/28) 看護職員採用試験(11/29) 5回目	

12月	特殊健康診断 (12/9~13) 合同忘年会 (12/17) 消防訓練 (12/19) 施設基準適時調査 (12/20)	
1月	会計検査院実地検査 (1/20~1/21) 医療監視 (1/24) 看護職員採用試験(1/25) 6回目	
2月	国立病院機構本部内部監査 (2/4~2/5) 東彼地区 (東彼杵町) 公開講座 (2/8) マイナビ主催看護師就職説明会 長崎 (2/16) ナース専科主催看護師就職説明会 福岡 (2/23) 消防訓練 (2/27) 地域医療支援病院運営委員会 (2/27)	
3月	伊勢顧問病院視察 (3/3) 看護職員採用試験 (3/4) 7回目 九州グループ主催看護師就職説明会 福岡 (3/15) 合同送別会 (3/19) 辞令交付式 (3/31)	

# 事務部—企画課—

企画課長 野口 弘一郎

## 2024年度医療機器等契約状況一覧

機器等区分	機械名	メーカー	規格	数量	納品月	区分
その他	解剖台一式	加藤萬製作所	KA-ASL-BZ	1	2024/05	更新
その他	全自動錠剤分包機	トーション	Xana-2040UF4 UF4カセット	1	2025/01	緊急
その他	全自動散薬分包機	トーション	Ai-8080Win	1	2025/01	緊急
合計				3		